

インターバンクの声（2015年10月28日）

今週の為替市場は、米連邦公開市場委員会（FOMC）と日銀金融政策決定会合の開催が控えており、余程の材料が飛び出して来ない限り、そうそう相場が一方向に突っ走ることはない。冷戦時代は遠い昔のこととなり、ましてやつい先日習近平主席が訪米してオバマ大統領と会談したばかりとあって、米イージス艦が南シナ海の南沙諸島で、中国の埋立てた人工島から12カイリの海域内を航行したからといって、これが直ちに米中が紛争状態に突入するなど考えた人は少なかつたに違いない。昨日のアジア時間の午後、確かにこのニュースをきっかけにして安全資産である円買いが進んだとの見方も一部にはあったが、これは上海株や日経平均の下落がその主な要因だったはずだ。もっとも、国内でも弱腰と批判されていたオバマ大統領も、さすがに今回の中国の南シナ海での横暴ぶりには行動を起こすしかなかったようで、昨日の米国の行動が単なる牽制だったと認識するにはまだ早いかも知れない。まず足元は米FOMCと日銀会合が大きなイベントだが、一応久しく経験していない有事のリスクにも備えておいたほうが良いだろう。

提供：SBI リクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。